

開講日	2013年秋期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階講義室A・B
コースディレクター	名古屋市立大学病院 感染制御室 室長 中村 敦 (腫瘍免疫内科学)		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】人類の発展は感染症に対峙しながら進んできましたともいえます。しかし感染症の診断・治療・予防が飛躍的に進歩した現在もなお、発展途上国のみならず先進国でも未だに解決できない様々な問題をかかえています。医療に携わる関係者は感染症の基本的な知識とともに最新の情報に注意を払い、質の高い医療を提供することが求められています。
	【期待される成果】感染症に関する基本的知識や新たな情報、再認識したいさまざまな問題を学ぶことにより、安心・安全で質の高い医療を提供することを目指します。
目標とする 資格	ICD制度協議会:インフェクションコントロールドクター、日本感染症学会感染症専門医、日本化学会療法学会:抗菌化学療法認定医/指導医・認定歯科医師/指導医・認定薬剤師、日本看護協会:感染管理認定看護師、日本病院薬剤師会:感染制御認定薬剤師、日本臨床微生物学会感染制御認定臨床微生物検査技師(ICMT)

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	感染のお仕事	感染の仕事って、なんだか気味悪いし地味い~…って思っていませんか？そんな皆さんに我々の爽やかなお仕事を爽やかにご紹介します！	9月3日	医長 南 仁哲 トヨタ記念病院 集中治療科
L-2	2	検査室とともに感染症に立ち向かう！	適切な検査とは？感染症・院内感染に対峙する検査室の役割は？病原菌や院内感染の初動検査班である微生物検査室の立場からお話しします。	9月10日	臨床検査技師 脇山 直樹 名古屋市立大学病院 中央臨床検査部/感染制御室
L-3	3	薬剤師とともに感染症に立ち向かう！	近年、薬剤師は病棟活動の中で感染症の治療に関わる機会が増えてきています。本講義では、薬剤師が実際に経験した症例を通じて、PK-PD理論、TDMなどに関する基礎的な知識について解説を行います。	9月17日	抗菌化学療法認定薬剤師 塩田 有史 名古屋市立大学病院 薬剤部/感染制御室
L-4	4	看護師とともに感染症に立ち向かおう！	感染症患者が発生した時の看護に必要な、感染管理の基礎となる予防策・環境整備について、また感染管理を担う看護師としての役割や現場スタッフへの介入についてお話しします。	9月24日	感染管理認定看護師 田上 由紀子 名古屋市立大学病院 感染制御室
L-5	5	MRSAアウトブレイクから学ぶ感染対策予防	多剤耐性菌の感染対策はどうのに行うのか。当院で起ったアウトブレイク事例を通して、院内感染対策予防の実際について講義します。	10月1日	感染管理認定看護師 畠山 和人 名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部
L-6	6	待つた無しの院内感染、今回はVRE	微生物検査室と感染対策室のパイプラインである感染対策室専任検査技師が、着任初年度に経験したVRE保菌者の院内多発事例について語ります。	10月8日	臨床検査技師 和久田 光毅 藤田保健衛生大学病院 感染対策室／臨床検査部
L-7	7	Clostridium difficile 関連疾患の診断と治療	院内感染としてのClostridium difficile感染症の診断から治療、そして感染対策チームの関わりについてお話しします。	10月15日	部長 長谷川 千尋 名古屋市立東部医療センター 第一消化器内科
L-8	8	上下部消化管感染症—ピロリ菌からO-157、ディフィシル菌まで—	消化管感染症には、胃がんの原因であるピロリ菌、腹部症状で1番多くみられる下痢を起こすウイルスや細菌感染症があります。最近の知見を織り交ぜ解説します。	10月22日	講師 谷田 謙史 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学
L-9	9	小児期の感染症と予防法	小児期は様々な感染症に罹ります。その予防は重要ですが予防の1つとしてワクチン接種があり、最近5年間に日本では認可ワクチンが増えました。代表的な感染症とワクチン接種を含めた予防法についてお話しします。	10月29日	主任部長 浅井 雅美 大同病院 小児科 宏潤会
L-10	10	抗菌薬あたりまえ体操	医療に携わっていく中で、感染症治療を避けて通ることはできませんが、実際は何となく行っている人は少なくありません。感染症治療で大切な3つ「抗菌薬・細菌・感染臓器」のうち、抗菌薬の「あたりまえ」についてお伝えします。	11月5日	助手 安井 稔博 藤田保健衛生大学病院 小児外科
L-11	11	感染症への行政からのアプローチ	保健行政にとって、感染症は古くて新しい永遠のテーマです。必要な届出や報告など関係法規に関する基礎知識や、保健所で取り組んでいる感染症対策について、お話をさせていただきます。	11月12日	所長 神谷 美歩 名古屋市瑞穂保健所
L-12	12	免疫不全状態での感染症の考え方	膠原病の治療にはステロイドや免疫抑制剤などを使用するため、重症感染症や結核、サイトメガロウイルス、真菌感染など多くの感染症が様々な臓器に生じます。免疫不全状態での感染症の考え方について、症例を提示しながら解説します。	11月19日	医師 為近 真也 名古屋市立大学病院 膠原病内科
L-13	13	日本のHIV/エイズの現状—増え続けているエイズ患者の背景を考える-	HIV感染症は1990年代後半から効果的な抗HIV療法が可能となり、エイズ発症はほぼ完全に抑えられるようになりました。しかし、わが国ではエイズ発症者数を抑えることが出来ず、特に、男性同性間の性的接触（以下、MSM）における発症者の増加が見られています。こうした現状と予防啓発への取り組みを紹介します。	11月26日	教授 市川 誠一 名古屋市立大学大学院看護学研究科 国際保健看護学
L-14	14	ワクチンで予防可能な病気—インフルエンザと肺炎球菌ワクチンを中心	高齢者に対する2つのワクチンの肺炎予防効果を紹介します。最近、わが国では多くのワクチンが急速に導入され、ワクチン・ギャップの解消が図られています。	12月3日	所長 鈴木 幹三 名古屋市千種保健所
L-15	15	呼吸器感染症のトピックス/シリーズの総括	呼吸器感染症の新しい話題をピックアップして略説します。その後に本コースで学んだ内容をインタラクティブ方式を用いて総括します。どれくらい身についたのか、ご自身の習熟度をチェックしましょう！	12月17日	准教授 中村 敦 名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍免疫内科学